

スターリン体制

- 1) 世界恐慌の影響を受けることもなく、1933年～37年の【1: 】 ※1 を経て1930年代後半にはアメリカに次ぐ工業国に成長した。1934年、フランスの斡旋で、ソ連は国際連盟に加盟 ※2。1935年、コミンテルンは反ファシズム人民戦線（後掲）を提唱し、ファシズム国家と対決する姿勢を明瞭にした。1936年には【2: 】 が発布された。
- 2) しかし、【2】に規定された信教の自由や民族間の平等などはほとんど保障されず、有力指導者の間でも、反対派とみなした人々に事実無根の罪状を負わせ、大量に逮捕・投獄・処刑を繰り返した。これを肅正と言う。スターリン自身に対する個人崇拜を要求した。共産党の一方支配も維持された。
- 3) **スターリン体制とは、1930年代はじめから1953年まで続いたスターリンの独裁のこと！**ソ連は国民を犠牲にしてアメリカに次ぐ工業大国に成長した。批判する者は処刑されたり、矯正労働収容所（ラーゲリ）送りとなった。
 - ※1 農業集団化の徹底とともに、消費物資生産のため、軽工業にも力を入れた。
 - ※2 1939年、フィンランド侵攻を理由に国際連盟を除名された。

1930年代のイタリア

既に1924年、フィウメを併合

- 1935年 【3: 】 を強行 国際連盟、経済制裁を行うも効果なし
- 1936年 エチオピアを併合
ドイツに接近、【4: 】 ※3 と呼ばれる協力関係が成立。
- 1937年 日独防共協定（1936）に加わり、【5: 】 が成立。

国際連盟脱退

三国の関係をまとめるとこうなる。

イタリア	ドイツ	日本
エチオピア侵略 1935	ラインラント進駐 1936	日中全面戦争突入直前
スペイン内戦干渉 1936-39		
ベルリン=ローマ枢軸 1936		国際的孤立
日独防共協定（反共・反ソ） 1936		
1937年	日独伊三国防共協定	
1940年9月	日独伊三国（軍事）同盟	

※3 枢軸（すうじく）って何？：1936年10月、ムッソリーニがイタリアのローマとドイツのベルリンを結ぶ南北の軸（ベルリン・ローマ枢軸）を指すものとして用いたのが始まりとされる。英語で axis 。言葉上は（蝶番を使わない古式の開き戸で）開き戸の回転軸の意味である。歴史的には連合国と敵対した諸国の総称。

枢軸国＝独・伊・日＋ブルガリア王国、ハンガリー王国、タイ王国（終戦後の外交手腕により敗戦国としての扱いを免れる）、フィンランド共和国、ルーマニア王国、フランスのヴィシー政権。

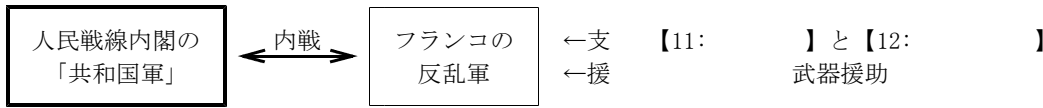
人民戦線と反ファシズム

- 1) 1930年前後には、**ファシズムは全世界的な政治運動に発展し**、伊(1922)、独(1933)、日(1936)では政権を掌握し、イギリス、フランス、アメリカでさえも、国内にファシズム組織が作られ政権を目指して活発に活動していた。英仏米の世論は幸いにもファシズムを許さなかった。
- 2) ファシズムを止めようという運動も世界的に広まった。
 - ①1932年 【6: 】 開催。
ロマン=ロランの呼びかけでヨーロッパ30カ国の知識人が集まって開催された国際会議。
 - ②最も有力なものは**コミンテルンに主導された【7: 】 の運動**である。
コミンテルンは、それまで非共産主義の社会主義政党を敵視し、修正主義者と口を極めて批判し、いくつかの国でのファシズム政権の成立や東欧の軍事独裁体制の成立を阻止できなかった。1935年の第7回大会で、**大きな路線転換をした**。いわば、「味方でない者は敵」から「**敵でない者は味方**」への発想の転換を行い、ファシズムに反対するすべての勢力が協力する**人民戦線（反ファシズム統一戦線）の結成**を提唱した。結集の対象は、政治的には共産党、社会党、社会民主党、自由主義政党など左から保守まで含み、階層的にも労働者、農民、市民、知識人、宗教家、希には資本家など全階層を含む。この運動は自然発生的にはなく、意図的に作られ、世界中に広められた。**コミンテルンの最大の歴史的業績**。
- 3) **人民戦線の運動は、フランスとスペインでは、一時、政権を掌握し、中国では統一戦線ができた。**
 - 〔フランス〕 フランスの**人民戦線内閣** 1936-37：社会党の【8: 】 職1936-37 を首相とした**社会党・急進社会党の連立内閣**。共産党の閣外協力あり。週40時間労働制、有給休暇法（今日の「ヴァカンス」の起源）、団体協約などを推進し、反ファシズム政策を取ったが、経済危機を克服できず退陣した。
 - 〔スペイン〕 スペイン革命：1931年の総選挙で共和派が勝利。アルフォンソ13世が退位・亡命。スペイン共和国（第二共和政）が実現。新憲法を制定し、政教分離や土地改革に着手した。地主、資本家、教会に支援され右翼勢力が台頭し、政情は不安定となった。1936年1月結成の**スペイン人民戦線**は、2月の総選挙で勝利し、**アサーニャ人民戦線内閣**が成立。土地改革、教会の特権剥奪などに乗り出したが、フランコ将軍が反乱を起こし、1939年、内乱に倒れた。この内乱は、第二次世界大戦の前哨戦と言われた。後掲スペイン内戦参照。
 - 〔中国〕 1936年12月の西安事件をきっかけに、1937年、**第二次国共合作**が成立。**抗日民族統一戦線**が成立したのである。詳しくはNo.183参照

スペイン内戦 1936-39 第二次世界大戦の前哨戦とされる。 **スペイン内戦は重要、頻出！**

「内乱」や「動乱」と書いている教科書もあるが不適切。本書では「内戦」と記す。

- 1) 反ファシズムの【9: 】に対抗して、1936年7月、軍人の【10: 】がモロッコで反乱を起こし、スペインは内戦状態となった。1936年、イギリス、フランスの主導で、スペイン内戦不干渉委員会が成立。ソ連、ドイツ、イタリアなど27ヵ国が参加した。ドイツ、イタリアは公然と反乱軍を援助したので、ソ連は脱退した。



↑ ソ連 ちょっとだけ支援

- 【13: 】
世界中から4万人の戦うボランティアが参加。
ヘミングウェイ※4、オーウェルなどもいた。
☆英・仏・米政府は「共和国軍」を支援せず。

ドイツはスペインを最新兵器※5の試射場にした。バスク地方の共和国側の小都市である【14: 】を1937年、無差別爆撃で壊滅させた。ニュース映画でこれを知ったピカソは憤り、大作「ゲルニカ」※6を制作した。

ピカソはスペイン人だが主にフランスで創作した。

イギリス・フランス両国は【15: 】を堅持した。

- 2) フランコは1939年3月27日、マドリードを陥落させ、31日には全土を制圧。勝利を収めたフランコは、地主とカトリック教会に支えられ独裁者となった。1975年に病死するまで君臨した。

※4 ヘミングウェイはこの時の体験から「誰が為に鐘は鳴る」を創作。第二次世界大戦中の1943年に映画化された。義勇兵で爆破の専門家ロベルト（ゲーリー＝クーバー）は、抵抗組織に救われ行動をともにするマリア（イングリッド＝バーグマン）と出会う。愛し合う2人に鉄橋爆破作戦決行の時は迫る。犠牲を払って作戦は成功したが脱出時に重傷を負い乗馬できないロベルトは一人残って追っ手と闘い、ここで死ぬことを決意、マリアに別れを告げる。「今度是一緒にいけない。君が行ってくれば僕も行ける。君は僕なんだ。」主演のイングリッド＝バーグマンは、その前年1942年公開のラブロマンス映画「カサブランカ」にも出演している。舞台は親ドイツのヴィシー政権支配下にあったモロッコのカサブランカ。謎の多い男リックが経営する地元唯一最大の酒場で、ドイツの愛国歌『ラインの守り』を歌うドイツ軍士官たちに憤慨した客が、バンドに『ラ・マルセイユーズ』を演奏させ、その後店内の全ての客が『ラ・マルセイユーズ』を歌うシーンは印象深い。両作品とも第二次世界大戦の激戦期に制作され、娯楽性と同時に反ドイツプロパガンタの面も濃厚に持っている。ヨーロッパの空の戦いを描く『メンフィス・ベル』も1944年公開である。この作品は1990年にカラーでリメイクされた。

※5 ナチ党政権が1936-39年、スペイン内戦に派遣したドイツ空軍をコンドル軍団という。メッサーシュミットBf 109戦闘機、ハインケル He 111爆撃機、ユンカースJu87急降下爆撃機は、コンドル軍団で初めて実戦投入された。実戦使用で徹底的に改良された新兵器は第二次世界大戦で遺憾なく性能を発揮した。

※6 「ゲルニカ」は3.5m×7.8mの大作。ニューヨーク近代美術館に預けられていたが、フランコの死後スペインが民主化された1981年、スペインに返還された。「スペイン動乱は、スペイン人民と自由に対して、反動勢力が仕掛けた戦争である。私の芸術家としての生涯は反動勢力に対する絶え間なき闘争以外の何物でもなかった。私が反動勢力と死に対して同意できるなどと誰が考えることができようか。私は『ゲルニカ』と名付ける現在制作中の作品において、スペインを苦痛と死の中に沈めてしまったファシズムに対する嫌悪をはっきりと表明する。」（「ゲルニカ」制作時の声明より）ピカソは仏共産党の党員だった。大戦中もアメリカに避難せずヴィシー政権下の仏で創作。

エスタド・ノヴォ

- 1) 【16: 】では、1910年に君主制が倒れてから混乱状態にあり、軍部のクーデターが国民の支持を得る状態にあった。【17: 】1889-1970 が、1933年に新憲法を制定して、「神、祖国、そして家族」をスローガンに「エスタド・ノヴォ」（新国家体制）の成立を宣言、ファシズム指向を持った父権的干渉主義政権である。スペイン内戦ではフランコを支援したが、第二次世界大戦では中立ないしは联合国寄り。戦後はアメリカ・イギリスに接近しNATOに加盟した。
- 2) 1960年代の植民地で暴動が頻発、アンゴラ、モザンビーク、ギニアビサウなどの植民地の独立を、勢力範囲拡張を狙う東西両陣営が支援した。1961年以降、植民地戦争はベトナム戦争と同じように激化、泥沼化し大勢の人々を虐殺した。1968年、サラザールは事故により引退。後継のマルセロ＝カエターノ首相はエスタド・ノヴォ体制と植民地戦争を継続した。そのため、1974年4月25日に決起した国軍運動（MFA）の左派将校らによるカーネーション革命により体制は崩壊した。詳細はNo.201を参照せよ。
- 3) 多くのアフリカ諸国が1960年とその前後に独立しているのに、アンゴラ独立はなぜ1975年なのか、という問題に関連して出題されることがある。

《蛇足》J・K・ローリングの小説『ハリー・ポッター』シリーズに登場する、ホグワーツ魔法魔術学校を創設した4人の魔法使いの一人、サラザール＝スリザリンの名は、このポルトガルの独裁者アントニオ＝サラザールから来ている。

2016 早稲田大学 2/13, 一般 国際教養（一部 編集）

正解 エ

問 1936年～39年のスペイン内戦に関する記述で誤りを含むものを一つ選びなさい。

- ア 人民戦線政府の初代首相はアサーニャであった。
- イ フランコ将軍は、人民戦線勢力との内戦に勝利した。
- ウ ピカソの絵画「ゲルニカ」はスペイン内戦中の事件を題材としている。
- エ ドイツとイタリアは不干渉政策をとった。